

H-1：人材育成

開催日時・会場 9月20日（木曜日） 13:50-15:20 403(4階)

若手研究者の人材育成と キャリアパス形成を目的とした産学連携プログラム

従来、社会実装につながる知的財産を有しない若手研究者の産学交流は極めて限られていた。しかしながら、産業界から、アカデミア研究の主要な担い手である助教・准教授クラス研究者への関心は非常に高い。このような状況を改善するため、京都大学、大阪大学、神戸大学が行っている次世代研究者育成プログラム(K-CONNEX)では、若手研究者を対象にした新たな産学交流制度を開発し、次世代研究者育成、産業界へのキャリアパス形成、及び産学共同研究の契機に資する取組みを重ねてきた。本セッションでは、これらの取組みについてK-CONNEXの共同実施機関と京都大学から紹介する。

研究開発型企业を中心に420社が集積する京都リサーチパークからは、アカデミアと産業界の若手研究者がフランクな雰囲気の中で知的好奇心を相互に刺激するような研究交流と、その交流機会を効果的な次世代研究者育成の場とするための工夫について紹介する。また、アカデミア研究の事業化促進のため、事業会社や投資家との提携に向けたピッチ&パートナーリングイベントについても紹介する。

また、博士課程学生の中長期研究インターンシップを実施している産学協働イノベーション人材育成協議会からは、企業との共同研究の萌芽探索や産業界へのキャリアパス形成強化に資する試みとして、大学研究者が専門領域を同一にする企業研究所に赴いて研究紹介する取組み、逆に企業研究所の若手博士研究者が大学に赴いて産業界における研究開発の面白さや社会実装の難しさ・やりがいを紹介する取組みについて紹介する。

さらに、京都大学学術研究支援室(KURA)からは、大学独自の学内ファンド(SPIRITS)において、今年度から新たに創設した「産官学共創型」について紹介する。本制度では、大学研究者が企業等と連携してボトムアップで研究チームを構築する取組みをURAが伴奏支援するとともに、産業界とのチーム形成を通じて大学教員・博士研究員・学生等の産官学連携に対する志向を育成することも目的としている。

オーガナイザー

小川 正:

京都大学・次世代研究創成ユニット・特任教授/プログラムマネージャー



大阪大学基礎工学部制御工学科卒、自然科学研究機構生理学研究所 助手、京都大学大学院医学研究科 准教授を経て、2015年より現職。文部科学省 科学技術人材育成コンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム)の採択を受けて、京都大学、大阪大学、神戸大学が設立したコンソーシアム(K-CONNEX)において、助教・准教授クラスの若手研究者を対象とした育成・支援プログラムを構築している。博士(工学)

H-1 : 人材育成

講演者



藤森 義弘:

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会・事業責任者

京都大学薬学部卒、同大学院薬学研究科博士後期課程研究指導認定(1984年)。京都府立乙訓高等学校非常勤講師(数学)を経て、1985年京都の老舗企業に後継者候補として入社。1998年同社専務取締役退任。1999年株式会社最適化研究所設立、代表取締役就任。国庫補助事業「京都パブリックカーシステム実証実験(1999-2003年)」実施。京都商工会議所で産学連携業務に従事後、2014年4月から現職。



信田 誠:

京都リサーチパーク株式会社・成長企業支援部・シニアコーディネーター

京都大学工学部物理工学科卒。(株)エイチ・アイ・エスを経て、2002年に京都リサーチパーク(株)に入社。ベンチャー支援や産学連携業務に携わった後、企画部にて経営企画、広報、海外連携分野で数々の社内プロジェクトの立上げに関わる。その後新事業開発業務を経て、2018年4月より現職。現在はベンチャー支援のエコシステム構築に従事している。



伊藤 健雄: 京都大学・学術研究支援室・URA

京都大学工学研究科博士(工学)修了。米国メリーランド大学博士研究員、京都大学工学研究科助教、京都大学学術研究支援室URA兼産官学連携本部特任教授を経て、2014年から2年間、経済産業省産業技術環境局大学連携推進室室長補佐として、理系女性を含む理工系人材育成施策やクロスアポイントメントの基本的枠組策定にかかる業務に従事。2016年より現職。